

今回の調査区と第1～3次調査区の位置 (S = 1/2, 500)



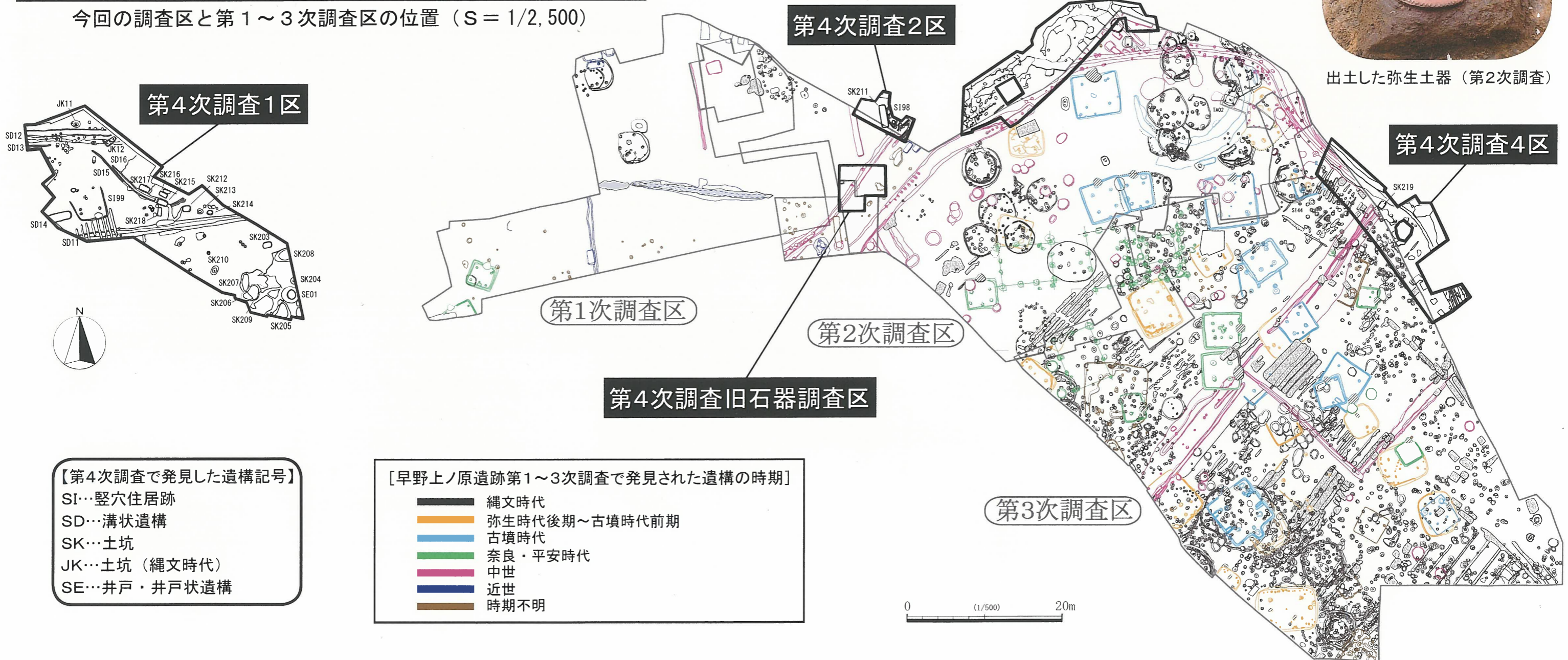
縄文時代の竪穴住居跡 (第3次調査)



奈良時代の竪穴住居跡 (第2次調査)



出土した弥生土器 (第2次調査)



【第4次調査で発見した遺構記号】
 SI…竪穴住居跡
 SD…溝状遺構
 SK…土坑
 JK…土坑 (縄文時代)
 SE…井戸・井戸状遺構

[早野上ノ原遺跡第1～3次調査で発見された遺構の時期]
 縄文時代
 弥生時代後期～古墳時代前期
 古墳時代
 奈良・平安時代
 中世
 近世
 時期不明

今回の調査区とこれまでの調査で発見された各時期の遺構 (S = 1/500)

2 これまでの調査履歴と成果

早野上ノ原遺跡の発掘調査は、川崎市営霊園である早野聖地公園における新規墓所整備事業に伴うもので、平成19年度に第1次発掘調査として約800㎡、平成20年度に第2次発掘調査として約1,800㎡、平成21年度に約3,500㎡を調査しました。平成22年度以降も引き続き発掘調査をする予定でしたが、早野聖地公園整備事業の内容・計画を再度検討することになったため、発掘調査も一時中断していました。

第1～3次までの発掘調査によって、旧石器時代から近世までのほぼすべての時代が重層している複合遺跡であることがわかりました。これまでに発見された主な遺構は、次のとおりです。

旧石器時代……石器集中ブロック2ヶ所

縄文時代……竪穴住居跡48軒、落とし穴9基、土坑114基

弥生時代……竪穴住居跡17軒、土坑3基

古墳時代……古墳1基（古墳周溝内土坑3基）、竪穴住居跡14軒

奈良・平安時代……竪穴住居跡8軒、掘立柱建物跡6棟、土坑5基

中世……竪穴状遺構3基、地下式坑5基、道路状遺構2条、溝状遺構9条、土坑53基、柵列跡1列

近世……道路状遺構1条、溝状遺構1条、土坑13基

時期不明遺構……竪穴住居跡6軒、土坑1基

3 第4次発掘調査の概要

第4次発掘調査は、新規墓地造成事業の再開にともない、平成30年9月3日～同年12月28日（終了予定）の期間で計画し、実施中です。調査面積は約800㎡を予定し、旧石器時代から近世までの各時代の調査を実施する予定です。これまでに発見された主な遺構は、次のとおりです。

4-1区……落とし穴（縄文時代）2基、竪穴住居跡（古墳時代）1軒、溝状遺構（中世）1条、井戸1基（時期不明）

4-2区……竪穴住居跡（縄文時代）2軒、溝状遺構（中世）1条

4-3区……現在遺構確認中

4-4区……竪穴住居跡（縄文時代）1軒、溝状遺構（中世）1条、井戸1基（時期不明）

4 第4次発掘調査の成果

第4次調査区は、第1～3次調査区的位置からみると、その斜面下側（4-1区）と、北及び北東側の縁辺部分（4-2～4区）に設定しました。本日（11月4日）までに見つかった遺構は、多くはありません。しかし、これまでの成果を突き合わせると、大変重要なことがわかってきます。

1点目は、ムラの中心がはっきりとしてきたことです。遺構の密度が高い第2・3次調査区の西側にある第1次調査区では、竪穴住居跡の軒数が少なくなっています。第4次調査では、さらにその西側を発掘しましたが、竪穴住居跡がわずかに1軒しか見つかりませんでした。これにより、これまで発掘された範囲内では、第2・3次調査区にムラの中心があるようにみえてきました。これまでの情報を組み合わせると、丘陵平坦部分に発展したムラの景観を知ることができます。

2点目は、丘陵平坦面の北側縁辺に、中世の溝状遺構が連続していることがわかったことです。現在わかっているだけでも全長300mはあります。どのような土地利用をしていたのか、これからの調査課題となります。

3点目は、これまで発見されていなかった井戸が2基見つかったことです。4-1区と4-4区に各1基あります。どの時代のものか、現在調査中です。